漢方の効能

Efficacy of traditional medicine “KAMPO”

鶏血藤配合剤による歯肉の炎症に対する改善効果

Improvement Effect on Gingival Inflammation by *Jixueteng*-formulated Traditional Chinese Medicine

鈴木　光雄 (*SUZUKI Mitsuo*) [1, 6]　岡部　葉子 (*OKABE Yoko*)[1]　渡辺　秀司 (*WATANABE Shuji*) [2, 6]
遠山　歳三 (*TOYAMA Toshizo*)[3,6]　両角　旦 (*MOROZUMI Akira*) [4]　坂上　宏 (*SAKAGAMI Hiroshi*) [5]
佐々木　悠 (*SASAKI Haruka*) [6]　浜田　信城 (*HAMADA Nobushiro*) [6*]

[1] デンタル デザイン クリニック（東京都港区北青山 3-7-10 D2 Place 2F）
[2] とつかグリーン歯科医院（神奈川県横浜市戸塚区汲沢 1-10-46 踊場メディカルセンター 4F）
[3] リーフデンタルクリニック（神奈川県横浜市金沢区泥亀 2 丁目 11-2 高波ビル 2F）
[4] もろずみ歯科（神奈川県川崎市宮前区宮前平 1-3-1　白水ビル 1F）
[5] 明海大学歯科医学総合研究所（埼玉県坂戸市けやき台 1-1）
[6] 神奈川歯科大学　口腔科学講座　微生物感染学分野（神奈川県横須賀市稲岡町 82 番地）

Key Words: 漢方薬　生薬　鶏血藤　歯周病　咬合

抄録

歯周病の治療は、口腔内細菌だけでなく宿主側の因子が深く関わる。症状の悪化した部位の対症療法として化学療法薬による治療や歯周外科手術を行っても完全な治療効果を得られないこともある。宿主側の免疫力や口腔内細菌に対する抵抗力を期待する方策が必要と考えられる。生薬や漢方薬の最大の特徴は、西洋医学の薬物のように一方向性の作用ではなく、生体が本来保有する恒常性・正常化から総合的に作用し調和を取るものである。本報告では、最良と考えて行った治療を施してもなかなか歯肉の炎症が消退しない症例に対して、循環改善、鎮痛、赤血球および白血球の増産等の薬理作用を有する鶏血藤を配合した貼付薬が有効に作用して患部歯肉の改善が認められた症例について報告する。

はじめに

前回は鶏血藤を含む貼付薬の短期間による治癒を提示した。今回は長期にわたる歯周病治療の生薬による歯肉の治癒を示したい。慢性に進行した歯周病の治療は難治性であり，進行を止めるには歯周初期治療後，化学療法や歯周外科手術が行われるものの，その効果に疑問が残る症例も少なくはない。今回は長期にわたって症例を観察し，従来の補綴治療，歯周治療を経たのち紆余曲折を経験し，最終的に生薬が有効であった症例の治癒経過を報告する。

生薬の長期的な臨床応用

慢性的な歯周病に対する長期の治療経過であるが，従来の治療方法では炎症がなかなか完治しない症例に漢方を応用した。その結果，劇的な治療効果が認められたので報告する。

本症例は，初診が 1992 年で，当時 32 歳の女性である。職業は医師で，主訴は前歯部の歯肉の

図 1　初診時の口腔内写真。上顎前歯部の歯肉に炎症が見られる。

図 2　初診より 11 年経過時の口腔内写真。まだ前歯部に炎症が見られる。

図 3　初診より 27 年経過時の口腔内写真。生薬の効果で前歯部の炎症は消退し，歯肉が引き締まってきている

炎症が気になるとのことであった（**図 1**）。仕事が忙しくメインテナンスに年に数回来院していた。2003 年時は，まだ炎症が取れず，相変わらず仕事は忙しく睡眠時間も 1 日に 3 時間半であった（**図 2**）。

本人曰く，患者さんと話をしていても血が噴き出してくるとのことであった。2014 年よりインプラケアーの使用を始め，1 日に 2，3 回指で歯肉に塗布してもらうように指導した。特に，就寝前には塗布してそのまま寝てもらうように説明した。2019 年の近々の写真であるが歯肉が引き締まってきて，出血も止まってきた。歯肉の状態は，引き締まり，色も淡いピンク色で，血の流れの滞り，またはそれによって起きる様々な症状や疾病を指す瘀血[1, 2]の状態が改善していることが確認できた。患者本人も歯肉から血が噴き出るようなこともないと言っていた（**図 3**）。

考察

本症例のような睡眠時間も極端に短く，オーバーワークが原因で歯科的トラブルを持つ患者では，一般的な歯科治療だけでは良好な治療結果を得ることが難しい。喫煙者の歯肉状態が悪い理由も，ニコチンによる毛細血管収縮と血流不足で歯肉に炎症が生じていることが考えられる。歯周組織の炎症を伴う歯科診療においては，ストレス緩和，生活改善や食事療養などのアドバイスとともに生体が本来備えている自然治癒力を活性化する生薬や漢方薬を利用することを考慮する必要があると考えている。

漢方医学的に歯肉の炎症を考えると，そこには瘀血が生じており，血流改善が不可欠と考えている。もちろん，歯周組織の歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis*[3] などの細菌感染だけでなく，咬合性外傷，歯列不正や不良補綴物による咬合関係[4]も原因として挙げられる。歯科治療の興味深いところは，一つの問題解決だけでは完治が難しいことである。いくつもの複雑な要素が絡んでいることから，それらを一つ一つ解決していかなくてはならない。本症例では，咬合調整などで咬合力のコントロールを行ったが，歯肉の炎症が完治しなかった。最終的に残った問題点は，やはり瘀血であった。そこで，鶏血藤を配合した貼付薬を利用したところ、歯肉状態が健全になった症例を経験した。本症例の結果は，鶏血藤による毛細血管再生と血流改善が大きく，このことにより瘀血の状態が劇的に改善され，歯肉の状態が良好になったと考えられた。

参考文献

1. 日本東洋医学会学術教育委員会編：入門漢方医学．南江堂．2002.
2. 音琴淳一：歯周組織に起こる末梢血管の障害と歯周疾患の関連．日本顎咬合学会誌 咬み合わせの科学：**34**(3): 301-306, 2014.
3. 中山浩次：口腔偏性嫌気性細菌 *Porphyromonas gingivalis* の病原性に関する分子遺伝学的研究．日本細菌学雑誌 **56** (4): 573-585, 2001.
4. 鈴木光雄：歯科人類学と近代咬合論 シークエンシャル咬合を基礎とした統括的歯科医療．ゼニス出版．2018.

*Correspondence to:
浜田　信城（Nobushiro Hamada）
神奈川歯科大学　口腔科学講座　微生物感染学分野
〒 238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町 82 番地
Email: hamada@kdu.ac.jp 電話 &FAX: 046-822-8867